

平成28年度 東京衛生学園専門学校 学校関係者評価報告書

学校法人 後藤学園
東京衛生学園専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園 東京衛生学園専門学校では、関連企業・機関・施設の代表、卒業生代表、保護者代表から成る「学校関係者評価委員会」を組織し、平成28年度の自己点検・評価結果に基づく学校関係者評価を実施したので、次のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会

<学校関係者評価委員>

- 北目茂 委員長（公益社団法人 東京都理学療法士協会 監事）
- 柴島英剛 副委員長（東洋医療系学科 同窓会 理事）
- 長谷川美枝子 委員（医療法人社団 青葉会 牧野記念病院 看護部長）
- 菊地貴彦 委員（大田区鍼灸師会 会長）
- 江良ヒデ子 委員（看護学科 同窓会 会長）
- 長谷川誠 委員（リハビリテーション学科 同窓会 厚生部 部長）
- 加藤一人 委員（保護者代表：PNF研究所株式会社 代表取締役）
- 増山健太郎 委員（増山治療院 院長）

<教職員>

- 後藤修司（学校長）
- 森島健（教務部長、リハビリテーション学科 学科長）
- 五十嵐万喜子（事務次長、学校関係者評価委員会事務局）
- 光畑昇（企画調整局 第三者評価・広報・情報システム企画 担当副局長）
- 小林里美（看護学科二年課程 学科長）
- 波田康（東洋医療総合学科 学科長）
- 菅原之人（臨床教育専攻科 学科長、学校関係者評価委員会事務局）

2. 評価対象期間と委員会実施日時

<対象期間>

自：平成28年4月1日
至：平成29年3月31日

<委員会実施日時>

- 第1回：平成28年5月30日（月曜日）18：00～20：00
- 第2回：平成28年12月5日（月曜日）18：00～20：00
- 第3回：平成29年3月13日（月曜日）18：00～20：00

3. 実施方法、公表

平成28年度末に実施した自己点検・評価を学校関係者評価委員の皆様にお読みいただき、自己点検・評価結果の各基準に対するご意見と評価をとりまとめました。評価結果は、今後の本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等に公表します。

4. 平成28年度自己点検・自己評価に対する学校関係者評価

*評価基準 — 「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省）」に準拠

*評価点数 — 4＝適切、3＝ほぼ適切、2＝やや不適切、1＝不適切

基準1 教育理念・目的・育成人材像	評価(平均) 3.4
--------------------------	-------------------

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 3つのポリシー（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）については各校において独自の方針を出していると思われませんが、東京衛生学園でも専門学校の特色を出しながら策定に取り組んで欲しい。
- 教育理念等はわかりやすく提示されており目指す育成人材像も明確である。今後も育成に向う方法、育成する側の共通の思いがあると良いと思う。
- 各学科の関連業界における人材のニーズや社会のニーズは日々変化するので、今後も2年に1度は現場の卒業生を対象としたアンケート調査し、各学科で育成人材像を反映して欲しい。
- 教職員アンケート（理念等の浸透度）を充実する試みが良いと感じた。一方で浸透度がまだ低い状況なので、今後も理解度を高める努力を続けて欲しい。
- 依然課題があるようなので、さらなる取組みと改善方を期待する。

基準2 学校運営	評価(平均) 3.3
-----------------	-------------------

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 学校運営に関する内容については改善が見えてきている。
- 事業計画と部門毎の計画との整合性はとれている様に思う。全職員への周知はどの組織も苦勞するところが多いが、課題が明確であり取組む姿勢がみえる。
- 教職員アンケート（運営方針等の周知）の実施は評価できる。一方で浸透度がまだ低い状況なので、今後も理解度を高める努力を続けて欲しい。
- 情報システム化の整備についてはできるだけ早急に対応するよう取組んで欲しい。

基準3 教育活動	評価(平均) 3.3
-----------------	-------------------

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 教育活動に関する内容については概ね良好と思われる。
- 教育効果という評価が不足しているものの新しい取組みを実施し、その評価結果を反映することにより充実が図られていくと思われる。今後の期待できる。
- 卒業生ならびに就職先へのアンケート実施等で改善が図られている。
- 教員相互評価を実施するのはすばらしいと思う。

○教員・外部講師・学生間の評価の関連性や連携が乏しいように感じる。3者の評価が関連しあい機能すれば、学生・教員にとって教育活動がしやすい環境が作れると思う。

基準4 学修成果

評価(平均) 3.6

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 今年度の課題には対応できていると思う。
- 就職率については需要と供給の兼ね合いもあり一概には判断できないが、今後も就職率の向上により一層努力して欲しい。
- 学修成果の観点からも卒業生の社会的評価がフィードバックされ教育に反映されることを望む。
- 国家資格の取得については学生の目標でもあるので、国家試験の合格率は100%を目指して欲しい。

基準5 学生支援

評価(平均) 3.0

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 教職員の過負荷にならないように対応すべきであるが、就職等進路については、その後の追跡と各施設の需要の情報を得る必要がある。
- 根気良く学生のメンタル・実習などサポートしていると感じている。課題が明確になっているので、学生や保護者とのコミュニケーションがもっととれると良いのかもしれない。
- 同窓会がうまく機能すればよいと思う。
- 学生のメンタルサポートの為に設備や対応時間も充実しており退学率減少に付与している。
- 学校の学生に対する姿勢が問われる項目なので、さらなる改善を望む。

基準6 教育環境

評価(平均) 4.0

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等の環境を整備している。今後もより一層の努力を望む。
- 実際の消火体験など参加型の防災イベントは当事者に周知する手段として一番有用と思う。

基準7 学生の募集と受け入れ

評価(平均) 3.5

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 学生の募集と受け入れについては概ね良好と思われるが、今後はスポーツトレーナー志望の高校生が出場しそうな大会へのリクルート活動や外部企業との連携なども検討し募集対策に取り組んで欲しい。
- 2学科で若干の定員割れがあった。次年度に向け全学科100%を目標に取り組んで頂きたい。

基準8 財務

評価(平均) 3.1

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 財務については概ね良好と思われる。また、運営分析は実施されており中長期的な展望も考えられている。
- 今後は10年、20年に渡り学校が存続できるよう収支のバランスを工夫し頑張ってもらいたい。”

基準9 法令等の遵守

評価（平均） 4.0

＜学校関係者評価委員会の評価・提言等＞

○法令・設置基準等を遵守しながら適正な学校運営を行っていると思われる。また、自己評価の実施体制を整備し評価結果の公表も行っており良好である。

基準10 社会貢献・地域貢献

評価（平均） 3.4

＜学校関係者評価委員会の評価・提言等＞

○社会貢献・地域貢献については概ね良好と思われるが、学生のボランティア活動など実施方法について工夫する必要があると思われる。

○大田区の「くらし健康あんしんネットおおた」では、医師会をはじめ看護師・理学療法士・鍼灸師の団体も参加しており、学校も地域貢献の一環としての参加を継続し検討して欲しい。

基準11 国際交流

評価（平均） 3.1

＜学校関係者評価委員会の評価・提言等＞

○担当窓口の明確化や制度上の整備は必要だが活動は実施されており今後の発展に期待する。

○国際交流の様子をよりもっと積極的にHP等で公開して欲しい。

○今後は各国の状況を把握しながら新たな国際交流を検討することも重要と思われる。

